

はじめに

みなさんの家はペットを飼っていますか？

身近にペットを飼っている人はいますか？

日本の家庭では、約705万頭のイヌが飼育されており、イヌとひと暮らししている人は多いかもしれません。

この本では、イヌとみなさんが、

少しでも長くいっしょにいられるように、

知っておいてほしいこと、考えてほしいことをしょうかいしています。

どうして毎日散歩が必要なの？

私のごはんをあげてもいい？

地震が起きたらいっしょににげられる？

そのこたえは、この本の中にあります。

ペットは大切な家族です。

健康で、少しでも長く生きられるように、

イヌの体のしくみや役割、病気のことなどを学んで

毎日のお世話にいかしてください。

*一般社団法人ペットフード協会
「2022年（令和4年）全国犬猫飼育実態調査」より

知っておこう！

いっしょに暮らす動物の健康・病気のこと

イヌ

もくじ

はじめに 2

イヌの体のしくみ 4

● くわしく知ろう 顔 6

● くわしく知ろう 体 8

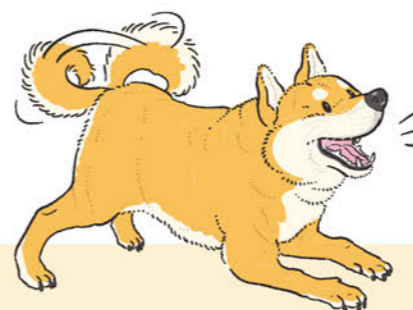
● 中はどうなってるの？ 頭と体 10

🐾 イヌの健康を守ろう 12

🐾 イヌがかかりやすい病気 14

コラム

イヌからヒトにうつる病気 17



🐾 イヌの命を守るワクチン 18

🐾 イヌの状態を見よう 20

🐾 これって病気？ 22

🐾 動物病院で健康チェック 24

🐾 イヌのごはん 26

🐾 運動とお手入れ 28

🐾 かわいい子イヌ 30

🐾 イヌの安全を守ろう 32

🐾 年をとったら 34

🐾 ひなんするときは 36

📖 **Q** おしえて！ 獣医さん 38

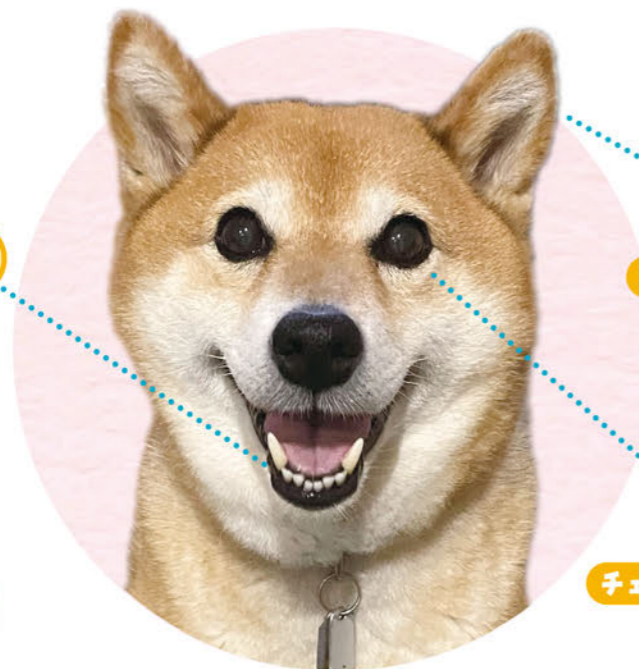
この本の内容や情報は、制作時点（2023年11月）のものであり、今後変更が生じる可能性があります。

くわしく知ろう

かお顔

イヌの顔には、ひみつがいっぱいあります。立派な歯や、目から長くのびた鼻、耳や目はどんな役割をもっているのでしょうか。

チェック! 1



チェック! 2

チェック! 3

1 するどい歯がある口

イヌの歯は、するどく長い犬歯が特徴です。舌は体温を調節するのに役立っていますが、味のちがいを感ずるのは得意ではありません。

裂肉歯

飲みこめるおおきさにさく歯

鼻のひみつ

イヌは、ヒトよりも鼻の中の面積が広がっているため、においを感じる細胞がヒトの約40倍あります。そのためイヌは、ヒトの100万~1億倍も、においに対する感覚がすぐれています。

犬歯

かむ歯

切歯

かむ歯

臼歯

くだく歯

歯はそれぞれ上下に同じものがある。

2 よく聞こえる耳

耳の周りの筋肉が発達しているため、前後左右に耳を動かし、音が発生している方向を感じとることができます。

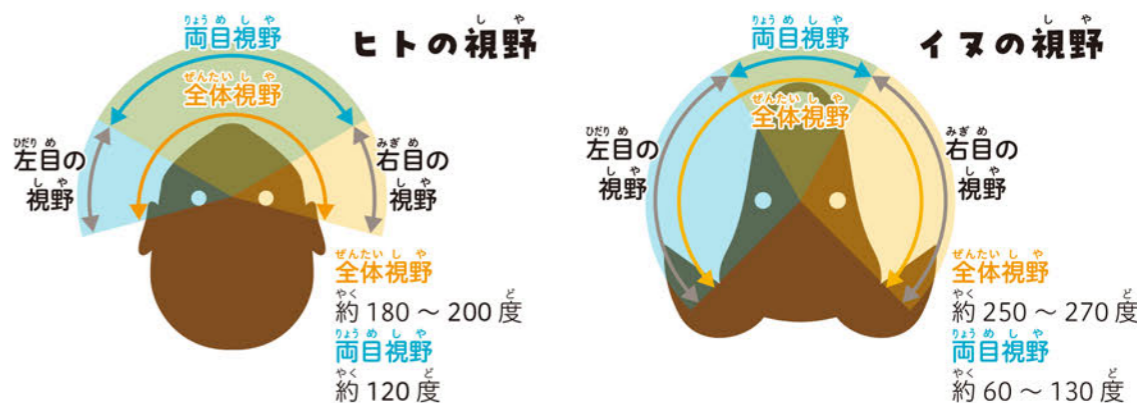
また、音が聞こえるはんいもヒトより広く、ヒトが感じない超音波も感じるすることができます。



3 広いはんいと動くものがよく見える目

イヌが目の焦点を合わせて見られるのは1mくらいまでで、それより遠くは焦点が合わなくなります。しかし、速く動くものやものの形を感じとる力があります。

また、色を感じる細胞が2種類しかないので、赤色は、はい色のように見えると考えられています。



両目視野はイヌのほうがせまいが、全体視野はイヌのほうが広い。

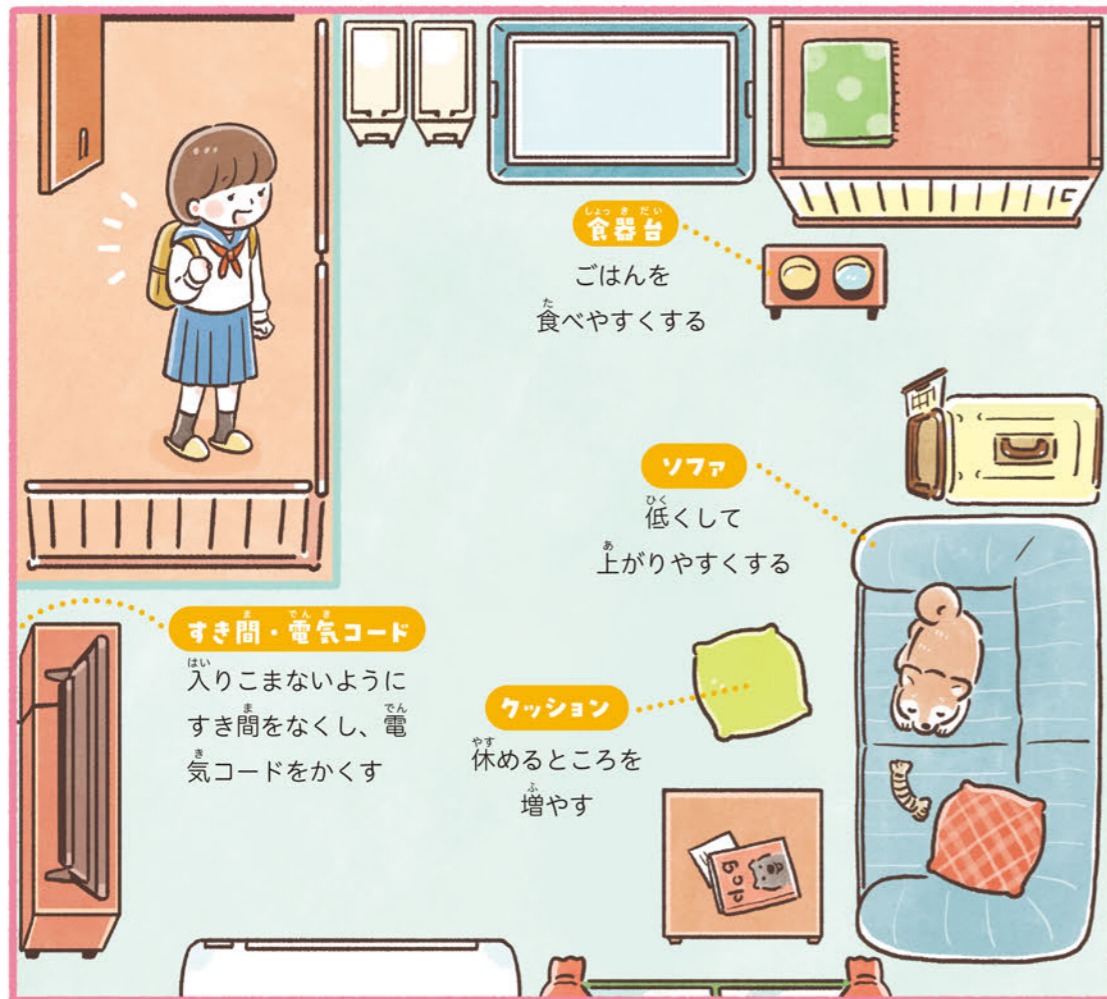
とし 年をとったら

栄養バランスを考えたごはんや医学の進歩などにより、長生きするイヌが増えました。年齢に合わせて、環境などを考える必要があります。

イヌの状態に合わせた部屋づくり

イヌも年をとると、これまでできていたことができなくなります。散歩をいやがる、トイレを失敗する、段差がうまく上がれない……これは老化のサインです。何歳ごろから老化が始まるかは、犬種やイヌによ

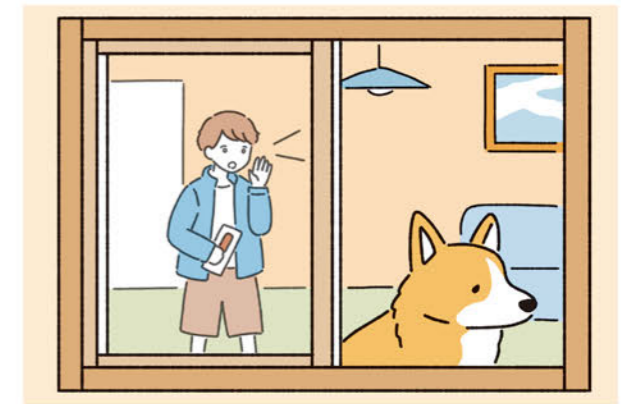
てもちがいます。段差やすき間をなくす、ごはんが食べやすいように食器台を置くなど、年齢とともに変わるイヌの状態に合わせて、無理なく暮らせる部屋に整えましょう。



老化と病気のサインを見のがさない

年をとってきて突然動かたがらなくなったら、椎間板ヘルニアの可能性もあるかもしれません。好きだったものに興味をもたなくなったり、呼んでも反応がなかったりする場合は、耳が遠くなっているだけでなく、認知症の可能性も考えられます。

老化に見えるサインは、さまざまな病気のサインでもあります。早めに病院に連れて行きましょう。



年をとると反応がにぶくなる。

介護とふれあい



椎間板ヘルニアになることが多いダックスフンドも、車いすがあれば散歩に行くことができる。

何度もトイレの失敗をしたり、トイレまで歩けなくなったりすると、おむつをつけます。歩けない場合は犬用の車いすを使うこともあります。

だんだんと弱っていく姿はつらく悲しいものですが、少しでも長くいっしょにいられるように、家族でお世話をすることが必要です。

また、なでたり話しかけたりして、ふれあうことも大切にしましょう。